石巻市

１．Ｃさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
２．Ｄさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
３．Ｅさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
４．Ｆさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
５．Ｇさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 161

気仙沼市

１．Ｏさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 171
２．Ｐさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 182
３．Ｑさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 192
４．Ｒさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 200
５．Ｓさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 209

岩沼市

１．Ｕさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225

Cさん：30歳代後半　経産婦
分娩日：2011年4月下旬　分娩時週数：25週

Int：アンケート用紙に沿ってお聞きしたいと思います。昨年の4月にお生まれになって、最近のお子さんの健診での身長、体重は、わかりますか。

C：身長は多分70センチ、体重は8キロ弱ですかね。

Int：特に発達で今は。

C：そうですね。ただちょっと脳外科的なこともあるので。成長してみないとわからないということ、ただ今のところ、まずまず順調にというか、ゆっくりではありますけれどもっていうことで、お話はいただいています。

Int：差支えなければ、脳外科的にって何が？

C：生まれて、翌日に脳内出血と、肺出血を起こしているんですね。それで、出血の程度は大したことないってお話だったんですけれども、結局シャントが必要になって、脳室内出血でVPシャントの手術とかをしています。

Int：今は、子育てしながら、健康面で気を付けたりしてますか？心配ごととか。

C：今のところ、そういう麻痺とかはないんですが、今年の7月にMRIの検査があって、ちょっと頭蓋骨が小さいということで、今後3、4歳になったときに、もしかして麻痺とかが出てくることもあるかもしれないっていうお話をされまして、ちょっとその辺でやっぱり不安というか心配です。今後、やっぱりある程度成長してみないと、その辺はわからないんだなということで、また改めて。

Int：それは今、N病院のほうで？

C：いえ、K病院です。生まれて3カ月後に手術とかが必要だってことでK病院のほうに転院になって。それから、フォローはずっとK病院でしてもらってます。

Int：じゃあ、通うの大変ですよね。

C：そうですね。

Int：震災前と現在までで、家族構成は特に変わりはないですか。

C：変わりないです。

Int：あとアンケートにある社会資源と病後保育っていうのは、これは具体的にどのようなことを利用されているんでしょうか。そのK病院とか。

C：そうです。

Int：アンケートにありますが、ご主人との関係では、具体的にどういった点を満足されてますか？

C：うちの夫はもともと船に乗っていて、毎日いるわけじゃないんですけど、いるときは一緒に子育てを手伝ってくれたりする、というところが一番大きいですかね。

Int：子育てっていうのは、他のお子さんも含めて。

C：ただ上の子は、もう大きいんですね。スポ少とかもいろいろやってるので、その辺りで、いるときは夫も協力してくれるので、3番目の世話をしてくれてたりとかですかね。

Int：2番目のお子さんのときも、同じようにお世話されていた。

C：そうですね。

Int：同じように。じゃあ、震災の影響ではなくて。

C：そうです、前々からしてくれる人です。

Int：わかりました。では、特に一番下のお子さんが生まれることによって夫婦の関係というか、子育てに関してとか、変わったっていうことは。

C：特にないですね。

Int：そうするとご主人からは育児の協力は十分得られているということですが、その他にお子さんの居場所っていうか、自宅以外で、例えば、他のいろんな子育て支援とか、どこか遊ばせたりするようなところはありますか？

C：特にないですかね。どうしても同じ世代の子とあんまり接したくないというか…。比べちゃいけないんですけど、やっぱり小さいんだなとか、やっぱり遅いんだなっていうのをどうしてもみちゃうので。最近は、外に出て遊ばせるようにはしてますけど、最初の頃は、なるべく接したくないっていうところも、ちょっとありましたね。

Int：そうすると育児っていいますと、K病院に通ってるということで、やっぱりそちらの専門家の指導を受けるって感じですか？

C：そうです。だから、それこそ石巻市の集団健診とかは行ってませんでした。週生で健診にも行ってみてくださいって保健師さんからも言われたんですけど、結局、K 病院に診てもらってるので、特に行かなかったですね。他の人の目っていうか、小さくてっていうのがどうしてもその辺はあったので。

Int：健診につれていくことに対しての負担みたいなものが。そちらのほうが大きい感じでしたか？

C：そうですね。そちらのほうが大きいですね。

Int：順調には成長してるけど、少し遅いっていうことで。

C：そうですね。

Int：それでは、いろいろ子育てで協力してくれているのが、ご主人と…。

C：あと上の娘が中2なので、上の娘が普段は結構力になってくれて、お風呂を上がったあとの介助をしてくれたりとか、あとご飯食べさせてくれたりとか。

Int：では、娘さんが結構手伝って。

C：そうですね。娘も手伝ってくれますね。

Int：あとお母さんも手伝ってくれるんですか？

C：そうです、ただ母は働いていますので、休みのときとか、あと病院の通院とかには休みをとってもらって、一緒に行ってもらったりしてます。

Int：あとご自身の兄弟姉妹っていう方は。

C：ただうちの姉たちも被災していて、ちょっと遠くなっちゃったんですね。今までは近くにいたので、ちょっと何かあれば力になってもらっていたんですけど、今はお互い大変というか。なので、今は兄妹にはあまり…。

Int：答えなくてもいいんですけど、今回の被災状況は、どうだったんでしょうか。

C：うちは全壊。実家も全壊だったので、結局お互い大変な状況だったので、なかなか…。今、実家は住めない区域で、私たちが戻れる場所だったら直して戻っているんですけど、実家は戻れなくなった

ので、今は、仮設にいるんですが、場所が離れちゃったので、姉は頼りにはならないですね。

Int：そうすると、しばらく仮設にいらっしゃったんですか。

C：私、そのときはお腹も大きかったので、アパートをすぐ。石巻市近いですけど、いったんちょっと別なところに移ってですか。

Int：アパートに入れてよかったですね。

C：そうですね。

Int：アパートにどのぐらい？

C：半年ですか。

Int：半年間。それで新たに新築かなにかされたんですか？

C：家ですか。家は全部リフォームです。家を建ててまだ２年目だったので、１階を全部リフォームしてもらって。元のところに戻ったような状況です。

Int：震災の影響って、ご主人の仕事のほうには、問題なかったですか。

C：大丈夫でしたね。

Int：経済的な問題もなかったですかね。

C：経済的なものも大丈夫でした。ただその当初はまだはっきりわからないっていう。結果、大丈夫だったんですけど。

Int：そうすると、今、困ったときに一番相談に乗ってくれるのはご主人なわけですか。

C：そうですかね。あと母親だったりですかね。

Int：比重っていったらどうですか、どちらがやはり。

C：ただ、普段、夫に相談しようにも結局いないので、話はするけど協力的なことってなると、やっぱり母親のほうが、どっちかっていうと。

Int：お母さん。具体的にどういうことで相談されたり。

C：でも今は、自分も仕事をしていないので、最近はそんなに悩むことはないです。生まれた当初は子どもの成長とか今後のことを考えて、ちょっといろいろありましたけど、今はそんなに悩んでいることとか、今はストレスもないですね。

Int：お子さんの成長のこと、相談っていうと、ご主人よりお母さんってことですか。

C：子どもの成長に関しては、やっぱり主人ですね。

Int：ご主人ですか。だいたい頻度というとどのくらい？

C：多分、子どもの成長だったら、母親にはそんなに…。心配もかけるので特に。

Int：もしよければ、（アンケートの）最後のほうをみると、時々動悸がするみたいなんですけど、これはやっぱりずっと続いているんですか？

C：今はないです。

Int：いつ頃まであったんですか？

C：去年あたりかな。最近は、ずっと大丈夫なんです。

Int：震災のことを思い出すというのは、これはいつ頃までですか？

C：思い出すのは、今でも思い出します。うん、思い出しますね。

Int：差し支えなければ、どんな内容ですか？

C：やっぱり亡くなった人とか思い出しちゃいます。そういえばこうだったよねとか。結構、周りに亡くなった方が多いんですけど、その子どもたちのこととかですかね。

Int：今はどのぐらいになってますかね。

C：場面、場面で思い出しますね。でも前みたく思い出して涙を流すっていうことはなくなったんですけど。

Int：夜なんかは、寝れてますか？

C：夜は眠れてます。それを考えて眠れないっていうことはないです。

Int：食欲なんかは？。

C：大丈夫です。

Int：気分の落ち込みとかはそういうものは？

C：大丈夫です。

Int：自分のこの精神的な心の問題で、相談したいことがあるとかありますか？

C：今は大丈夫ですね。

Int：（アンケートの）自由記載のところなんですけど、先ほどの繰り返しになるかもしれないんですが、やはりこれから先のことが今、不安っていうこと。

C：そうですね。成長とかその辺りが一番。

Int：早産だったんですか。

C：そうです。25週ですかね。

Int：かなり体重も小さいですもんね。子育てに関しての不安ってありますか、子どもの成長以外に。

C：特にないですね。最近は、でも、なるようにしか、ならないなっていうふうに言い聞かせて。

Int：子育て以外の不安は特に記載されていないんですけど。

C：特にその辺はないです。安定してますので。

Int：この一番必要と思われる支援ということで、子育てしているお母さんたちとのサークルっていうのは。

C：同じようにというか、どうしてもそういうサークルっていうと普通に順調な子…。情報とかもなんですけど、小さい子どもを生んでみて、そういった感じの情報っていうのが全くどこからも入ってこない。結局、病院友だちのお母さん達っていっても、近くにはいなくて、みんな遠くなので、そういう話し合いの場とかもあったらいいな、なんてふって思いました。

Int：実際に、そういうサークルって、今、全然ない？

C：多分そうですね。気を付けたことなかったですね。だから、どうしても病院の友だちなので、たまにお会いするとかぐらいしか、なかったですかね。

Int：K病院、例えばケースワーカー等から、そういう情報はないんですかね。

C：ちょっと聞いたことはなかったですね。

Int：それこそケースワーカーたちが把握してるっていうか。確かにそういう情報があればお互いに。

C：そうですね。お互いにこうだ、ああだって、同じ境遇のちょっと小さく生まれた子とか。

Int：今、自宅のほうに訪問というのは、どれぐらいの頻度であるんですか？

C：それもこっちから言わないと来てくれなかったので。もともと生まれて、半年後に退院してきたん

ですけど。病院のほうから、市のほうに連絡は入るそうなんですけど、結局、来てくれなくてこっちからちょっと用があったときに、こういうふうに生まれているんですけど体重とかちょっとっていうことで、「あ、そういえば連絡入ってました。」みたいな感じで来てくれたような。保健師さんとかは、「何かあったら連絡くださいね」っていう感じで、特に頻繁には…。うちは、ちょっと来てくださいっていうことで2回ぐらい来てもらいましたね。

Int：保健師さんですね。

C:そうです、保健師さんと栄養士さんのほうにもちょっと入っていただいたときがあったんですけど、それもこっちから連絡して。

Int：普通、1カ月訪問ってあるんですか。出産後1カ月、ただ入院されてたから1カ月訪問はなかったっていうことなんですか。

C：全くなかったんですね。何も来てくれなかったですね。

Int：そういうときに何か、退院後1カ月ぐらいにあれば、一番いいってこと。

C：そうですね。ちょっとしばらくは、体重のことが気になっていたので、定期的に来てくださったほうが心強かったんですけど、こっちから連絡してって言っても前から連絡するのも、なんとなく抵抗があって、連絡できないでいました。

Int：助産師さんに来てもらえる機会ってありますか。

C：助産師さんはないですね。来ていただいたときってないですね。上の子もそうですけど。

Int：その地域の中ではやっぱり保健師さんが中心になって。

C：そうですね。保健師さんだと。

Int：あとそれ以外の支援っていうのは、どうですか。

C：とりあえず今のところ、ゆっくりながらも順調にきてるので、今は、特にこうして欲しいとかっていうのは特に感じてはないです。

Int：わかりました。震災後、出産されるまで1カ月ちょっと、その間に何か実際にお変わりになったことは、ありましたか。

C：体調ですか。特に感じなかったんです。そのときにN病院にいたんですが、助産師さんから、きっと家のこととか、今後のことでいっぱいいっぱいで、多分お腹の張りとかも感じれなかったんじゃないかってことを言われたの。特に調子悪いっていうのはなかったんですね、自分的には。

Int：その震災直後で一番困ったことっていうのは。

C：震災直後は、産婦人科がストップしちゃって、その辺がすごい不安でした。どこで産んだらいいのかっていうのが、年齢的にも年を取ってきたので…。妊婦健診ではずっと順調にきていたんですけど、どうしようかなっていうので、その辺がすごい不安だったのは、今でも覚えてますね。

Int：もともとN病院で生んで。

C：違います。もともとは個人病院だったんですけど、そこが全部被災しちゃっているので、石巻の個人病院は全部ストップしてるってことで、N病院さんしか妊婦を扱っていないっていうふうになって、そうやっているうちに、まもなく妊婦健診を迎える時期でもあったんですね。どうしようかなって思っているときに、個人病院でほんとは産科を扱っていなかったんですけど、この震災の状況で、そこでも妊婦健診をやってくれますよっていう情報が入ったので、そこに行って妊婦健診はとりあえず4

月の初めに受けたんです。ただ、そこはお産は扱っていないので、N 病院のほうに回しますっていうことで。ただ、週数的にもう 21 週だかになっていて、20 週までの人は、すぐ N 病院のほうに回していたらしいんですけど、もう 20 週も過ぎていて、上のお子さんの話を聞いても順調にきてるようなので、28 週になったら N 病院のほうに紹介状を書きますっていう話だったんですね。そうやっているうちに破水しちゃって…。紹介状もまだ書いてもらう前の段階だったので、N 病院のほうに電話したら、たまたま電話を受けた方に、「診察かかってないので診れません」って言われたんですよ。それで、また今度不安で、どうしようどうしようってなって、結局、普通の病院、普通の科で扱えるものでもない、どうしようどうしようっていうことで、たまたま避難していたところが、W町だったんですね。だったら、じゃあと思って、F 病院でしたっけ、そちらに電話したら、ちょうど向こうの産婦人科の先生がお話を聞いてくださって、「もともと N 病院のほうにかかる予定だったのであれば、私が連絡してみます」っていうことで、先生がコンタクトをとってくれて、それで「今連絡したので、すぐ N 病院のほうに行ってください」ってことになって、ちょっとそこでまた、間があったんですね、何時間か。なので、今後、災害があったときに、そういうことがないように…と思って、私も今回、面接を希望して来たんですけど。

Int：確かにうまくスムーズにいければ一番よかったですね。

C：そうですね。そのあと、N 病院に行ったら、結局、週数的にも大きさ的にも、うちの病院では無理だからっていうことで、今度、またそこから S 市へ移ったので、破水してから、結構時間がたっちゃったんですね。結局、着いたら夜中になって、日にちも変わっちゃってっていうのがあったので、そこはすごい思いましたね。

Int：そのときに一番支えになってくれた方は、やっぱり…。

C：そうですね。そのときは、たまたま船が出れないでいた主人ですかね。

Int：それ以外に日常生活で困ることってありましたか。震災直後のことで。

C：直後は、家もどうなるんだろうっていうすごい不安と、主人の仕事が船だったので生活もどうなるのかなっていう不安ですかね。

Int：その不安が、やはりかなり強かったですか。

C：そうですね。強かったですね。ただそういう精神的な状態で、多分お腹張ってるのも感じなかったのかな、なんて思って。

Int：そのときに、上にお子さん 2 人いて、お子さんの子育てかなんか。

C：転出ですか、学校とかの。こっちに入学の準備とかいろいろ。中学校と小学校だったので、そういう準備とかも全部しなくちゃいけなかったですし。あと家の手続きとかいろいろ。夫もいましたけど、一緒にこっちだこっちだっていうふうになんとかしていたので。

Int：ご自身で。やっぱり日常生活のことは学校関係とか、そういうことですかね。

C：そうですね。いろいろ。

Int2：上のお子さんが、震災の直後に何か不安になっている様子とか見られましたか？

C：震災の 1 カ月ぐらいしてからですか、突然泣かれたりというのはありましたね。2 番目の息子ですかね、ちょうどスポ少で一緒に野球やっていた子が、目の前で流されちゃったのを見ているので、そういうので、思い出しちゃって突然夜にワーッと泣かれたときが一回だけありましたけど。でもその

後はないですね。逆に私がずっと泣いてばっかりいたので、そういうのでちょっと不安にさせちゃっていたのかもしれないですね。そうやっているうちに、生まれちゃったのもありますし。

Int：その、ご自身で泣いていたっていうことの、一番大きな要因っていうのは。

C：やっぱり全部混じっていた、あの辺りは。先生に、生まれたあと、どうなるかもわからないって、半分半分ですっていうこともあったし、あと亡くなった子どもたちとか、いろいろこう震災のことで、突然、ご飯食べながら泣いちゃったりとかっていうのがよくあったんですね。私自身が。多分そういうのが…。

Int：そうすると、2番目のお子さんが夜に一回泣いたっていう部分がありましたけど、震災後、それ以外で上のお子さん2人のことで困ったことって何かありましたか？

C：最初、学校が変わることで、嫌だってすごい言われたんですけど、すぐなじんでくれたので、その辺は大丈夫でした。

Int：現在、子育てしている中で、上のお子さん2人と、下のお子さんの子育ての両立については何か悩みってありますか。

C：ないです。

Int：それ以外に何かこちらの面接でお話したいことや、相談したいことってどうですかね。

C：とにかく、今後、もしどこかでこういうような災害が起きたときに、妊婦の診察など、スムーズにことが進んで、私たちみたいにならないように、っていうのが一番の。

Int：そういう体制ですね。

C：その体制ですね。私は、そこですごい不安になったのを今でも…。どうしようどうしようっていうので、あのときはほんとに普通の科と違って、どこの病院でも診てもらえるわけじゃないですよね。だから、どうしようってすごい不安になったのを、今でも覚えているので、その辺の体制ですか。

Int：災害で同じような状況になったときに、混乱してる中での緊急時の対応がスムーズにできるように、前持って今から準備できるかっていうことですね。

C：そうですね。そこは一番強く思いました。

Int：今回のこのお話、生かしてそういうようなところでも、少し出せればと思っています。今日はどうもありがとうございました。

Dさん：30歳代後半　初産婦
分娩日：2011年5月中旬　分娩時週数：37週

Int：Dさんご自身は、震災のときには、妊娠のどのくらい時期だったんですか。
D：妊娠7カ月くらいですね。6カ月後半から7カ月ぐらいでした。
Int：そのときの被害状況は、どんな感じだったんでしょうか。住まわれているところなどは。
D：うちはアパートの2階だったので、なんの被害もなくて、1階の人たちも床下で済んだようなんですね。アパート自体が、土地的にちょっと高いところにあったみたいで。でも、同じ地区でも2軒隣は床上とか、3軒隣はもう1階全部とか、その建ってる家によって、地盤の状態がちょっと違うだけで、随分違っていたみたいで。
Int：2軒隣でもそうなんですか。
D：そうです。W地区とか、津波がすごい来たところもそんな感じで。なので、うちのアパートは被害が少なかった。水は来たんですけど、被害は少なかったっていう感じでした。
Int：そのときは、アパートの中におられました？
D：いえ、実家に行っていて、弟が2人いて、それぞれ結婚して1人ずつ子どもがいるんですけれども、そのすぐ下の弟の奥さんと姪っ子も実家にいて、もう雪もすごい降ってきたので、じゃあ積もらないうちに帰るかってなって。弟家族も、うちのアパートの近所の貸家に住んでいたんですね。なので、帰るべしって言って、それぞれ帰ってきて、もうすぐアパートに着くっていう頃、車の運転中にあの地震に遭って。
Int：どんなでしたか？
D：最初パンクかと思ったんですけど、なんかマンホールとかから、水とかがすごいあふれてきてたので、「あ、これ私だけじゃないな」って思って。すぐ近くのコンビニに車を止めて、震災直後は電話がつながったので、すぐ後ろを走っていた（義理の）妹に電話して、離れないほうがいいからってコンビニで待ち合わせて。それからも余震があったので、ちょっとそこで待機して、私と妹とそれぞれ車に乗っていたんですけど、離れないほうがいいねって言って、私の車をそのままコンビニに置いて、妹の車で一緒に行動をすることにしたんです。それからまず妹の貸家に行って、妹がリュックにいろいろと子どもの物とか詰めて、もう5分ぐらいで来たんですけど。それで、次にうちのアパートに行って、私も自分の物とか母子手帳とか全部詰めて、車に乗って、すぐ近くの旦那の実家に仕事場があったので、ちょっと心配になって寄っていっていい？って言ったんですね。義理の妹と私と姪っ子と3人で旦那の実家に行って、呼んだら旦那がいて、お父さんたちは？って言ったら、みんな津波が来るからって逃げたよって言って、まさか自分は津波が来るとは思わないから、普通に仕事してたみたいなんです。普通にっていうか実家にいたみたいなんですね。とりあえず、うちの実家が山のほうなので、大丈夫だと思うから、うちらもうちの実家にいくべしっていうことになって、みんなで移動してたら、津波に遭ってしまって。
Int：というのは、車の中に。
D：車に乗ってて、移動中に津波が来てしまって。
Int：車まで。
D：はい。もう水が入ってきてしまったので、車を乗り捨てて逃げたんですね、みんなで。津波がきたところの近くに、ちょっと軒先が高いお家があって、もうそこのお家の人たちは逃げてて誰もいなか

ったんですけど、水がとりあえず来てないし、ちっちゃい姪っ子もいるので、とりあえずそこに逃げさせてもらおうって言って。しばらくそこに残っていたんですけど、どんどん水が上がって来てしまったので、ちょっと悪いなとは思ったんですけど、中に入らせてもらって、雪も降ってたし、中で待機させてもらっていたんですね。

Int：お家の方はどなたもいらっしゃらなかった。

D：いらっしゃらなかったです。

Int：留守のお宅で。

D：はい。緊急事態だからしょうがないよね、別になんにも盗むわけじゃないしとか言って。

Int：姪っ子さんは、何歳なんですか。

D：そのときは、3歳ですね。

Int：3歳。じゃあ、妹さんと姪っ子さんと、Dさんとご主人と、ちょうど4人で。

D：あと、ちょうど実家に旦那のほうの甥っこが帰ってきてて、高校3年生だったかな、2年生かな。置いていくわけにはいかないからということで、一緒に行動してたら、津波に遭ってしまったので、旦那の甥っこも一緒でしたね。

Int：なるほど。どの辺で、その水がきちゃったんですか。

D：S地区という。

Int：S地区というところ。ご実家は山手のほうにあったんですね。

D：山の岩盤の上に建ってるらしくて、地震自体の被害もそんなになくて。そんなにというか、全然ないほうで、津波も全く来なくて。旦那の実家は、1階が全部やられてしまって。

Int：ご主人の実家はどちらのほうなんですか。

D：そのS地区。

Int：同じS地区。

D：旦那は、実家に仕事場があって、毎日通っていたので。

Int：そっか。ご両親は津波が来ると思って逃げたけど、ご主人だけは残ってたっていうことですね。

D：残っていたんですね。いっつも地震があっても、津波は1メートルとか2メートルとか、30センチとかっていう報道だったので、まさかそんなに来ると思ってなかったみたいで。でも、お父さんたちは、お母さんがちょっと半身不随で車椅子と寝たきりみたいな感じなので、それもあったのかわからないですけど、お父さんの指示でみんなで逃げたみたいなんですね。

Int：なるほど。じゃあご主人のほうは、奥さんのほうが立ち寄らなければ、そのまま居残っていた可能性ありですね。

D：実家は、2階にいれば大丈夫でしたけど。S地区は、女川とかみたいに、テレビで見るようなダーッて勢いよく水が来たんではなくて、緩やかに水が浸水していったっていう感じなので。

Int：時間的には余裕が。

D：余裕があったし、水が来てもちょっと高いところにいれば大丈夫みたいな、持ちこたえられる感じでしたね。

Int：そのとき妊婦さんでしたよね。ご心配なことはなんでしたか。

D：結局、水に浸かってしまったので、身体が冷えてしまって、それで赤ちゃんが流れてしまわないかっていうことが心配でした。あと、妊婦健診も後々なんですけども、N病院があの通りだったので、妊婦健診が全然始まらなくて、いつから始まるのかもわかんなかったし、超音波で早く赤ちゃんを見て、無事を確かめたかったですね。

Int：そのお宅に留まったのは、どのぐらいの時間だったんですか。
D：1時間いるかいないかで、水がだんだん引けてきたので。
Int：そうすると、お腹まで水に浸かったんですか？
D：それは、ギリギリ大丈夫でしたね。あと夢中で歩いているうちに、股のあたりまで浸かってしまって、感染症とかになったらどうしようっていうのも心配でしたね。
Int：なるほど。そうすると、冷えと感染ですね。あとは、健診が受けられないことの不安と、超音波で赤ちゃんの元気さが確認できなかった不安ですか。それらは、どのようにして解消されてましたか。
D：そうですね。やっぱり家族ですね。3日目ぐらいに自分の実家に帰ることができたんですけど、そこでやっと安心できたんですけれども。
Int：その3日間っていうのは、どちらにおられたんですか。
D：1日目は、旦那の実家が、その避難させてもらった人の家から歩いてすぐだったので、旦那の実家に移動して、着替えとか2階でさせてもらって。
Int：その日のうちに。
D：その日のうちに。
Int：水はすぐ引いたんですか。
D：潮が満ちたり、引いたりするみたいに、夕方になったら、実家の階段の3段目とか4段目まで、また水が上がって来たので、1回移動して落ち着いたらもう動けなくなって。とりあえず、そこに泊まるしかなかったので、震災があった日の夜は、旦那の実家に泊まって。次の日は、すぐお向かいに4階建ての内科が建ってるんですね、そっちは水も出るし。1日目のとき水が実家の2階まで上がって来ないかどうか、すんごい心配だったんですね。なので、内科は4階建てだし、じゃあそっちに移らせてもらおうということで、朝、水が膝ぐらいまでに引いたときに移動して、2日目はその内科に泊まらせてもらいました。
Int：そのときは、何人ぐらい4階建ての内科のところに。
D：近所の人たちとか、あとちょうど受診にきてた人とか、結構居ました。30人か40人くらい居たんじゃないですかね。
Int：そこで、2日目は一晩ぐらいみなさん泊まったんですね。
D：そうですね。
Int：その時点でも水はまだ。
D：全然引いてなくて、寝れなかったですけど。膝ぐらいまでになったり、また歩けない、出ていかれないぐらいまでになったりとか、いろいろでしたね。いつになったら、ここから出れるかなとかって話していて。
Int：そのとき、内科なので、妊婦さんとしては、なんとかなるかなというような思いはありましたか。
D：看護婦さんとかもいたので、その点ではひとりでいるよりはちょっと心強かったですけど、でもみんな結構、自分の家のこととか、自分たちのことで頭がいっぱいだったので。もし、ほんとに緊急事態になったら、なんとかしてくれたかもしれないけど、でもやっぱり自分の実家に行くまでは、あんまり安心はできなかったですね。
Int：すごいご苦労されてますよね。
D：いや、そんなことはないです。
Int：2日目は内科におられて、そのあとは。
D：次の日の朝に水がだいぶ引いたし、そこにいた人たちも、もうみんな避難所とかに移動するってな

ったので、じゃあ、うちらも行こうかということになって、とりあえず、うちの実家に行くことにしたんですね。

Int：その病院の中で、一晩泊まって、なかなか水が引かないというような時、皆さん方の状況っていうのは、どんなでしたか。

D：近所に、お菓子屋さんとか商店とかやってるところが結構多かったので、その人たちが在庫のお菓子とかを持ち寄ってくれて、自由に食べなさいみたいな感じで。結構、物資とかも充実してたので、みんな切羽詰まっている感じはなかったですね。

Int：そうすると、隣近所の方々が、自分のお店にあるものを持って、そこに避難してこられたっていうことですよね。

D：そうですね。もしくは、水が引いたときに、ちょっと行って、持ってきて、みたいな。

Int：そうか、すごいですね。じゃあ、パニックになって、わんやわんやっていうのはなかったですか？

D：なかったですね。石油ストーブとかもあったので。あと、そこは水が水道水だけじゃなく、多分上にタンクかなんかがあって、あんまり飲み水には適さないけど、とりあえず、水も出たし。

Int：そうですか。そのときは、ずっとご主人と妹さん、姪っ子さん、甥っ子さんとご一緒に移動されてたんですね。何カ月ぐらいして、どのぐらいの期間で赤ちゃんの健診が受けられるようになりましたか。

D：1カ月後ぐらいかな。いつだったかな。

Int：その時期だと、定期的には2週間ごとに健診を受けなきゃいけないというのが、そもそもありますよね。だけど、そんなふうにはならなかった。

D：そうですね。来週から、毎週受けなきゃないのかって、思っていた時期だったんですね。

Int：じゃあ35、6週ぐらいのときでしたね。

D：震災から1週間後ぐらいに、予約が入っている日があったので、弟夫婦に乗せていってもらって、様子をみながら、「予約が入っているんですけど、受診はできますか」みたいな感じで言ったら、「ちょっと今緊急の患者さんでいっぱいなので、出血とか特に変わりがなければ、こちらから連絡があるまで待機しててください」みたいなことを言われて。

Int：そのとき、Dさんとしては、どんな感じでしたか。例えば、心配で不安で早産になるんじゃないか、あるいは、腰まで水に浸かって、感染するんじゃないかって心配したところに、健診もいつ始まるかわからない。

D：いつ始まるかわからないっていう感じ。あーそうなんだ、どうしようかなって思って、でも連絡がくるまで待っていてくださいって言うから待つしかないよなと思ってました。もちろん、他の町医者の産婦人科もやってるわけないし、ライフラインがそもそも整ってないから、どこもやってないし、ここに頼るしかないから、待つしかないんだろうなっていう感じでしたね。

Int：でも、今、私は緊急でないわっていうのは、どういうことで判断されましたか。

D：まず出血がなかったっていうことと、あと胎動が結構頻繁にあったので、元気なんだろうなっていうこと。あとは、妹たちも出産経験者だし、そういう人たちが周りに結構いたので心強かったっていうのもありますね。

Int：そうすると妹さん達、出産を経験された方々は、大丈夫よっていうような声掛けをしてくださったんですか？

D：そうですね。なんかあったら、こうこうこうで張ってきて出血したりするから、それがなければ大丈夫だよみたいな、アドバイス的なことを。

Int：具体的に、お話してくださった。そういうのは、いいですよね。何もないときに、安心材料になりますね。この辺りは、今後もすごく生かせていけると思いますね。そのあと、病院のほうから、連絡は来ましたか？

D：いえ、来ませんでしたね。震災から1カ月ぐらい経って、こちらから電話してみたら、なかなかつながりにくくて、ずっとかけてたんですけど、妊婦さんの産科だけは始まってますって言われて、やっと行けたっていう感じですね。

Int：外来は、混んでましたか。

D：そうですね。他の町医者に通っていた人たちも来ていたので、結構居たと思います。

Int：そのあとは、順調に普通の妊婦健診の経過ですね。ご主人のほうは、仕事場が流されてますよね。水浸しになっていたりしたんですか。

D：仕事場は2階だったので、ギリギリ大丈夫でした。

Int：そうでしたか、わかりました。じゃあ、あとはご出産も普通のように。

D：自然分娩で。震災からだいたい2カ月後ぐらいに、出産だったんですけれども、予定日より3週間早かったんですけど、でもその頃には、被災してないH地区っていうところの大きいスーパーも営業していたりして。震災から1カ月ぐらい経ってから、通常ではないにしろ、営業時間も何時から何時って決まっていたにしろ、結構、店舗とかも開きだして、物資とかも充実しだしてきた頃だったので、おむつとかも普通にスーパーとかで買えたし、あと、妹たちがお下がりとかをいっぱい実家に運んでてくれたので、私は赤ちゃんが生まれるための準備グッズっていうかが、全然何も心配なくて。

Int：そうしますと、出産にまつわることでご心配だったのは、震災当日の健康管理と、そのあとの妊婦健診がなかなか開始されなかったっていうところですね。

D：そうですね。

Int：いざ、出産っていうことに関しては、大丈夫だったということですね。

D：はい。あとは、生鮮食品がやっぱり手に入りにくいというか、新鮮な魚とかは望めなくても、納豆とか牛乳とか、お豆腐とか、低カロリーで高タンパクだから食べるといいよってお母さん学校とかで教えてもらっていたやつが、ほとんど手に入らなかったので、カルシウムとかをどうやってとっていいのかっていうのがわからなくて。わからなくてというか、とる手段がなくて、食事から栄養がとれなかったっていうのが、不安でしたね。

Int：お子さんは予定日3週間前で、何グラムぐらいで生まれましたか？

D：2486gです。

Int：小さかったですね。

D：ちょっと小さかったですけど、ぎりぎり保育器には入らないで、健康に生まれてくれました。

Int：今は、順調にお育ちになってますか？

D：はい。

Int：母乳栄養でした？ミルクですか？

D：混合です。

Int：どっちのほうが多い混合になりましたか？

D：ミルクが多かったですね。

Int：母乳はなかなか出ませんでしたか。

D：そうですね。なかなか量が出なくて。絞れば出てくるんですけど、量が出ないから、多分子どもも出ないと思って離しちゃうのか、それでだんだんと…。3カ月ぐらいまで母乳と混合でしたけど、その

あとは、もうミルクオンリーでしたね。
Int：そのあとは、順調に育って。お子さんは、今はもう普通の食事をされてますか？
D：はい。
Int：健康的にはどうですか？風邪引きやすかったり、下痢しやすかったりとか。
D：多分、健康なほうだと思います。
Int：そうですか。予防接種も順調にやられてますか？
D：はい、やってました。
Int：良かったです。そうしますと、育児の支援とかそういったものは？子育てサークルとかあるじゃないですか、そういうのはご参加されているんですか？
D：月に2回、0歳児から2歳児までのやつが公民館であるので、それに行ったりとか。
Int：0から2歳児の交流があるんですね。その他は、どんなことを。
D：あとは、自分の実家と旦那の実家に週1回ずつ行っているし、あとは近所で、同じアパートに子どもがすごく多いので、アパートの下で遊んだり、友だちの子どもと遊んだり、とかですね。
Int：アパートのお子さんたちは、同じぐらいのお子さんたちがいらっしゃるんですか？
D：同じぐらいの子もいるし、ちょっとお姉さんの子もいるし。
Int：そのアパートの子育てしているお母さんで、震災のときにどんな苦労をされたとか、こんなことがひどかったよっていうようなことは聞かれてますか。
D：あんまり聞かないですね。みんな、実家が流されたとかっていうのは聞いてますけど。自分の実家は流されても、旦那の実家は山のほうで大丈夫だったから、ずっとそっちにいたとかっていうのは聞いてますけど、ひどかったとかっていうのはあんまり…。話さないだけなのか…。
Int：あんまり話したがらないですか、そういう震災時のご苦労話っていうのは。
D：そういうことでもないんですけど、ゆっくり話す暇もないっていうか、子どもを遊ばせていて、みんながケガしないように見てなきゃいけないので…。
Int：インターネットでは、今かなり、いろんな情報が飛び交って、子育て支援というか、子育ての相談とかあるようですけれども、そういうのはご利用になってますか。
D：あんまり…。うちもインターネットがつながっていないので。雑誌とかも、最初のうちは見ていたんですけど、あんまり情報がありすぎても自分で迷ってしまうというのもあるので、とりあえず、生の声をすぐに聞ける母親の先輩が周りにいっぱいいるので。
Int：確かに、そのようですね。妹さんなんか特にね(笑)。あと、お父さんの協力体制なんかはどうですか？
D：そうですね。普通にやってくれているほうだと思います。
Int：そうですか。満足してますか？
D：うーん、もうちょっとやってくれてもいいかなとは思いますけど。
Int：ちなみに、どんなところを？
D：やっぱり、うちの弟たちと比べてしまうっていうか。うちの旦那は、男兄弟で育っているので、ちょっと気が利かないところとかもあって。うちの弟たちはこまめにおむつを替えてあげたりとか、いっぱい遊んであげたりしてるんですけど、そういうところがあんまり…。おむつも私がいないときはやっているみたいなんですけど、いるときは代えないですね、お風呂は入れてくれますけど。
Int：なるほどね。避難するのに、ご一緒に動かれていたとき、ご主人がいわゆる妊婦である奥さんに対して、何か配慮や気にかけるようなことってありましたか。

D:あんまりなかったですね。どうしたらいいかわかんないっていうのもあるのかもしれないですけど、特になかったと思います。その辺も、ちょっと不満…(笑)　もっと気を使ってもいいんじゃないって思ったんですけど。

Int：そうですか。ご主人はそのこと気付いておられますか？

D：気付いてないと思います。多分。

Int：やっぱり男兄弟だけと、女兄弟がいるっていうのとは、若干違うかしらね。

D：ちょっと空気を読めない感じですね。

Int：男兄弟なんですね。

D：4人男兄弟の4番目なんで。

Int：あーそうなんですか。4番目というのも、またすごいですね。

D：そうですね。

Int：それでご実家でお仕事されているんですか。

D：そうです。

Int：ご長男が継いでおられるとか、そういうことではなく。

D：長男が家を継いではいるんですけど、うちの旦那は自分だけの自営で、仕事場を実家に作ってもらったみたいな感じ。

Int：なるほど。ちなみに、どういったお仕事なんですか。

D：歯科技工士です。

Int：そうすると、自分のところにお仕事を持って来て、そこで作るという。

D：そうですね。契約している歯医者から仕事をもらって、作って納品してお金をもらうっていう。

Int：医療系のことをやっていても、やっぱり気が付かないですかね。妊婦さんの大きいお腹ですよね。

D：そうですね。結構、大きかったんですけど…(笑)

Int：2,400グラムで出産されたっていうことなんですけど、ちょっと小さめだねっていうのは、ずっと言われていたんですか？震災の前の妊婦健診で。

D：特に何も言われてなかったと思います。

Int：じゃあ、生まれてみて、びっくり。ちょっと小さめだねと。

D：3週間早いからなんですかね。

Int：3週間って言っても、37週でお生まれですよね。

D：36か7か。

Int：36週だと早産になるんですけど、37週に入ると満期産になっていくんですよね。ちょっとお子さんのことが心配かなと思ったんですけど、週数がいっているので元気であればほとんど問題ないのでね。お子さんはお嬢さんですか。

D：女の子です。

Int：どんな感じですか。

D：多分うるさいほうで、活発なほうだと、うちの母親には言われます。

Int：そういった、ずっと男兄弟だけで育ったご主人から、女のお子さんっていうのは、どんな感じなんでしょう。面倒見がいいんでしょうか。

D：生まれる前、女の子ってわかったときに、兄弟にも女の子いないのに、どう接していいかわかんねえ、みたいなことを言っていたんですね。生まれてからは普通にミルクも飲ませたりしてましたけど、遊び方がわかんないみたいですね。子どもにペタンコしようって言って、ペタンコーって、こうぎゅ

って抱いたり、なんか絵本を読んでってせがまれると、読んであげたりしてるんですけど、他の遊び方がわからないみたいですね。

Int：抱っこするとか、絵本を読んでって言われたら読んであげるけど、その他のことはなかなか思いつかないというか。

D：そうですね。一緒に散歩に行ったりしてるんですけど、向き合って手遊びするとか、歌って遊ぶとか、そういうのはやっぱりわかんないみたいで。

Int：そうなんだ。そういったところを見て、D さんはもどかしさを感じますか？

D：そうですね。やっぱりもっと遊んであげれば、もっと懐くのに…とか。今はイヤイヤの時期で、ペタンコしようってお父さんに言われると、イヤイヤって言うんです（笑）

Int：そんなときどうですか、お父さんの反応は。

D：「えっ、なんで？いいじゃん、駄目なの？」とかって言ってます。

Int：そっか。違う遊びを工夫するとかっていうことはしない。

D：しないですね。「じゃあ、いいよ」とかって言うんですね。

Int：そっか、下がっちゃう。そんなときは仲を取り持ったりはしないんですか、お母さんは。

D：そうですね。「ペタンコっていうのを、嫌がっているんだから、それ、やめたら？」って言って、「もっとうちの弟たちみたいに、こうやって遊んであげたり、積み木で遊んであげたりすれば、もっと懐くんじゃない？！」とは、最近言っているんですけど。

Int：父親業を教えてあげないと、なかなか父親になりにくいお父さんもいるんだ。特に、自分が育ってきた環境なんていうは、関係があるかもしれない。

D：そうですね。

お二方のご実家のほうに、週 1 回、定期的に通われているようだけれども、関係性は、すごく順調なんですね。

D：今のところは。

Int：今のところはって(笑)。そうすると、連れて行くと、結局、おじいちゃん、おばあちゃんにお世話していただくので、楽になるっていうことはありますか。

D：うちの実家に行ったときは楽ですね。旦那の実家に行ったときは、結局、お父さんも遊んであげることしかできないし、お母さんも寝たきりで、お姉さんがお世話をしているので、旦那のほうの実家には、元気に育っているよっていうのを、おじいちゃん、おばあちゃんに見せには行きますけど、私が 1 日用事あるから預けるとか、そういうことでは頼れない感じですね。そういうときは、うちの実家に預けたりするので、うちの実家にはすごい頼ってますね。

Int：確かにそうですね。ご主人の実家のほうは、お母さんがご病気で、お姉さんが介護されているんですね。

D：はい。そうですね。

Int：いろいろな場所が津波で流されて、今、お子さんを遊び育てるところの場所が狭いとか、そういうことはありませんか。大丈夫ですか？

D：震災直後では、結構、公園が瓦礫で埋まっていたりして、遊ぶとこないなっていうのはありましたけど、半年ぐらいすれば道路もきれいになって、公園もきれいになって落ち着いてきたので…。今現在は、公園でも普通に遊べますし、町内散歩にも普通に安全に行けますし、不安っていうのは特にないですね。ただ、託児所というか、保育所とか幼稚園とか、そういうところは、やっぱりまだいっぱいだって聞くので、実際、働きたいなって思ったときに、預けるところがあるかなという不安はあり

ますね。

Int：ご自身は働いていらっしゃったんですか。

D：妊娠してから辞めました。

Int：妊娠する前までは、働いていたんですね。働き口なんかは見つけられますか。

D：今は、どうなんですかね。ハローワークもいっぱいだって言うので、1年経ってどうなのか、今現在の状況は、ちょっとよくわかんないですけど。

Int：ハローワークは、いっぱいなんですか。

D：いっぱいみたいです、まだ。

Int：女性だけじゃなく、男性も？

D：はい。

Int：そうすると、できれば託児所に預けて働きに出たいっていう考えをお持ちなんですね。

D：思ってます。でも、2人目も欲しいかなとも思っていて、ちょっとその辺で悩んでいるところです。

Int：なるほど。どっちが強いですか。

D：今しか産めないので、もう1人欲しいです。

Int：この辺も、託児所は満杯で、なかなか入れないんですか。

D：そうですね。S市内の託児所とか保育所とかは、いっぱいみたいです。あと働いているお母さんが優先なので…。

Int：そうすると、市内は難しいんですね。お話を伺うと、育児の相談ができる方はたくさんおられるようなので、あまり心配ないですね。

D：そうですね。月に2回、公民館に遊びに行ったときに、保育士の方とかにも、相談したりできるので。

Int：そのときは、保育士さんがいらっしゃるんですか。

D：保育士さんが2人来て、お遊戯とかみんなで一緒にやって、おもちゃをいっぱい持ってきてくれて、自由に遊ばせてとかっていうプログラムですね。

Int：あとは、ちょっと小さめで生まれていらっしゃるので、例えば小児科とか定期健診に行かれてますよね。そういったところで病気ではないけれども、何か相談というか、そういうようなことは自由にされてますか。

D：そうですね。一回、おむつを替えるときに、子どもの足の関節が左だけコキコキと鳴っていたので、それは健診のときに聞いてみました。

Int：定期的な健診の間隔で、心配ごとは解消できてますか。

D：そうですね。だいたい解消できてると思います。

Int：こんなことを、子育て中に手伝ってもらうとすごくいいんだけど…っていうようなことは、何かありますか。

D：なんだろう…。首がすわってない頃って、やっぱり家にこもりがちになってしまうので、そういうときに、もうちょっと訪問してくれる、ベテランの保育士の相談員の人とかが来てくれるといいかなと思いますけど。それか、もっとほんとに生まれたての子どもを連れて集まってこれる、そういうお母さんたちが集まって話ができるところがあればいいかなと思いますけど。最初の1カ月、2カ月っていうのは、やっぱり外に出られないし、寝不足もあるし、ちょっと煮詰まってくるっていうか、そういう時期に、何か支援があったらなとは思うんですけど。

Int：わかりました、確かにおっしゃる通りだと思います。なので、私たちも、自分で来れない方の家

庭訪問、できるだけお家に出向いて行って、相談事をお尋ねするような回数を増やそうかとか、果たしてそれができるかっていうようなことで考えてはいるんですけど。あとは、お子さんの発達に関して、今のところ気になるところっていうか、ご心配なところはありますか。

D：まだしゃべらないでんです。早い子はしゃべったりしているみたいなので。

Int：個別性は大きいですね。

D：しゃべったりする発育っていうかが、ちょっと遅いのかなとは思ってますけど。でも自己主張もするし、みんなで楽しく遊んでいるので、個人差があるから、あんまり気にしないほうがいいよって妹たちにも言われます。

Int：そうです、そうです。結構、個人差が大きいです。

D：それが、ちょっと気になっている感じですかね。

Int：私たちもね、出産後4カ月までの間に、必ず1回は家庭訪問をして、家庭の中でどういうような雰囲気で子育てをされているかっていうのを、きちんと把握しましょうってことにはなっているんですけど、1回だけでは足りないですよね、きっとね。

D：そうですね。できれば月に2回とか、3回とか来てもらえると心強いかもしれない。私は、実家がすぐ近くなんで、その点はいいですけど、もし実家が県外とかで、頼るところがないっていうか、しょっちゅう行けるところがないお母さんたちは、結構大変かなと思いますね。

Int：そうですよね。あと何か気になるところとかはございませんでしょうか。ぜひこういう話を。

D：忘れないうちに言っておきたいんですけど。

Int：ぜひ。

D：私は妊婦だったので、あんまり人混みとかも行かなかったし、弟夫婦、妹夫婦がドラッグストアとかコンビニとかに何時間も並んでいろいろ物資をゲットしてきてくれたりして、お姉さんは家にいてくださいみたいな感じで大事にされていたんですけど、友だちとかがコンビニで並んでいるときに、すんごいお腹が大きい妊婦さんがいて、赤ちゃんグッズ、出産したら使う赤ちゃんのセットとか全部流されてしまったって、妊婦パンツ買いたいとかって言っていたみたいなんですね。物資とかも、定期的になんでも持っていっていいですよっていう、コミュニティセンターとか公民館とか、そういう場所が何カ所かあったんですけど、そういうとこに行っても、女性用の下着とかはいっぱいあっても、妊婦パンツとかはまずないんですよね。妊婦用の下着って特殊じゃないですか。なので、もし今後、震災とかあったら、病院とかでもいいので、そういう妊婦専用の服とか下着とかを配布してくれる場所があるといいかなと思いますね。

Int：妊婦さん特有の必要物品を必要なところに配置しておいて、そこに行けば手に入るというような方法をとって。

D：行く手段がある人はいいんですけど。

Int：あー、そうですね。

D：今回の震災では、車も流されてなくなって、妊婦だからそんな長時間も歩けなくて、移動もできなくて、そこまで行く手段がない人っていうのが、ほとんどでしたよね。避難所の中でもやっぱり人数が少ないじゃないですか、妊婦とか。その中で妊婦用品とか特殊なものを持ってきてくれるなんていうことは、多分ないと思うんですよね。なので、やっぱり病院とか、医療スタッフの人とかが運んでくれたりすると助かるかな。

Int：どこに行けばそれが手に入るかっていうことと、妊婦さんや、まだ小さいお子さんを子育てしているお母さんがどこにいるかっていうことが、医療側なりがわかっていれば、そこに出向いていける

っていうことですね。
D：そうですよね。
Int：そういうような体制を取ってもらえたらいいっていうことですよね。今回もずいぶんと苦労はしたんです。まず一番最初に手に入れようとしたのは、ミルクとおむつだったんですね。ただ、それらは仙台のU病院に大量に届いたんだけれども、それを運んでいく手立てがなくって、そこをなんとか試行錯誤しながら運んだんですね。あのときは、ほんとにみんな必死だったんだけれども、やっぱりあとで冷静に考えてみると、事前にそういう体制を作っておかないといけないっていうことですね。
D：結構、赤ちゃんグッズとか、赤ちゃん用の洗剤とか、シャンプーとか、そういうものは、そういう物資を配っているところにちらほらあったりして。そういった生まれてから必要なやつは、結構、充実してるっていうわけでもないんですけど、あるんです。でも、妊婦用っていうとないんですよね。
Int：なるほど。そうですね。わかりました。じゃあ、妊婦用の必要な物を必要な方にいかにしたら届けることができるかっていうようなことを検討していただくことにします。その他、何かございませんですか。
D：なんかあったかな…。
Int：あとは、先ほどお伺いしたときに、若干余裕があったので、こういったアンケート等にも答えていただけたっていうことだったんですけれども、そうじゃなくてアンケートにも答える余裕がないっていうお母さんたちが仮設住宅に子育て中で今入っておられるっていうような方をご存じだってお話だったんですけれども、そういう方々とは一緒に子どもたちが集まるときなど、そういうような話題になることはありますか。当時、こうやって欲しかったのにとか。
D：あんまりないですかね。
Int：先ほど、お子さんの安全を確保するのに目がいって、なかなかお母さんたちと話をする余裕がないっておっしゃってましたけれども。
D：実家が流されたとか、そういう話で、今実家の人たちはどこどこの仮設にいるとかっていう話はしますけど、それ以外のことは特に。どうやって逃げたとか、そのとき何食べてたかとか、そういう細かい話はしないですね。
Int：なるほどね。でも妊婦さんにとってみれば、その妊娠期の食事は気になりましたね。
D：気を使わなきゃと思って、いろいろとやっていたときに…。うちは実家が農家なので、米とか野菜とかは、まあまあ手に入ったんですけど、やっぱりカルシウムとか、積極的に取らなきゃいけないものが手に入らなかったので、そこが気になったし。
Int：なるほどね。わかりました。じゃあ、そういったとき、妊婦さんには、例えばサプリメントなどででも、栄養面で補強したほうがいいというようなところも、もしかするとあるのかもしれませんね。、そういう準備も必要ですね。
D：サプリメントと下着を。上に着る服は、旦那とか男用のものを着ても、なんとでもなりますけど、下着とかはどうにもならないので。下着とかサプリメントとかがあると結構心強いというか、心配がひとつなくなるというか。
Int：わかりました。今日は、わざわざご足労いただきまして、ほんとに長い時間ありがとうございました。
D：ありがとうございました。

Eさん：30歳代後半　初産婦
分娩日：2011年3月中旬　分娩時週数：40週

Int：　ちょうど遊びの好奇心も増えてきて、活発になって目が離せないですね。今日は、よろしくお願いします。
E：　もう体力あり余ってます。夏場は、暑くてあまり外に出られなかったので、最近はできるだけ外に行ったり、なるべくサークルとかに行ったりしてます。
Int：　そのサークルはどうですか、このあたりは活発なんですか？
E：　震災後に立ち上がったベビースマイルっていうサークルで、コミュニティセンターとかでやってるものとか、近所にある子育て支援センターとかに、なるべく自分のために行くようにしてます。一日中この子一緒で、家族は、主人と私と3人なんで、日中ずっと2人っていうのも、やっぱりお互いに息が詰まって(笑)
Int：　そうですよね。お母さんのリフレッシュのためにもね。
E：　連れて歩けば、連れて歩くだけ、最近すごく疲れるんですけど。でも、寝てもらうためにもなるべく外に…。
Int：　そういうところで、お母さんのお友だちっていうのは。
E：　はい、何人か。
Int：　良かったですね。お友だちができるといろいろ話ができたりとか。
E：　そういうのもやっぱり、子ども同士の遊びから、色々と教えてもらったり。まだ一緒に遊ぶっていう感じではないんですけど。
Int：　それは良かった。お友だちができてね。お母さんたちが仲良くなると、お子さんも安心しますしね。育児の面で行くところというか、居場所も確保してらっしゃるし。
E：　私のほうの親がもういないもので、ちょっと実家に帰るっていうか、そういうことができないのがやっぱり一番つらくて。
Int：　ご両親は、今回の震災で？
E：　じゃなくて。その前に、もう両親2人とも他界してまして。何かと不安なこともあって、主人の両親はいるんですけど、車で30分ちょっと離れたところだし、年齢が結構高くなってしまっているので、なかなか預けるっていうのも、ちょっと心配だったり…。
Int：　普段、一緒にいるわけでないからね。
E：　たまに一緒にいて、1時間とか2時間とかって、私がつきながら遊ぶ分には構わないんですけど、やっぱりちょっと預けるっていうのは、多分無理だと思う。なので、最近、それでちょっと苦しいなという思いがあるんですけど。
Int：　そういったサークルで知り合ってお友だちなんかができたり、そういうような行き場はあるけれども、何かのときに見てもらうっていうのが…
E：　そうですね。ちょっとの時に見てもらうとかっていうのが、今、なくて。近くのスーパーで、託児をやっているところがあるんです。サークルやっているときに預かってくれたり、ママ対象のサークルとかっていうのがあって、そういうときに預かりますよっていうのが。それだけじゃなく何の用事でもいいんですけど、そういうのがあって、最初に預けたときは全然良かったんですけど、最近、預けられるのが嫌になってしまって、泣かれて泣かれて。1歳半になったので、近くの保育所で一時預